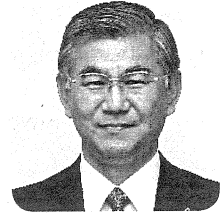


伊奈町の学校の業務改善・教員の働き方改革

【プロフィール】

昭和53年度公立小学校教諭、昭和57年度から埼玉大学教育学部附属小学校教諭・副校長、平成15年度から指導主事を経て、平成18年度11月に中学校長、平成24年度総合教育センター総合企画長を経て、25年度から小学校長。平成28年度10月から現職。

伊奈町教育委員会 教育長 たかせ ひろし 高瀬 浩



伊奈町では、平成29年度から3年間、文部科学省・埼玉県教育委員会委託「学校現場における業務改善加速事業」に取り組んで来た。現在、コロナ禍にあるが、この取組は、さらに推進していく必要がある。

「業務改善・働き方改革」の目的は、子供たちと向き合う時間を確保し、教員の本来業務である学習指導や生徒指導の充実、及び余暇の活用を通して、教育の質の向上を図ることである。そして、「子供たちの笑顔があふれる学校」をつくることである。このことは、休養や心のゆとりから、教職員事故防止にもつながると考えている。

本稿では、教育長の立場から、この事業の取組についてトップダウンとボトムアップの視点から述べる。

教育長・校長のリーダーシップ、マネジメント

ここでは、「トップダウン」について取り上げる。

どのような経営や運営であっても、目指す学校像が明確に示され、共有化され、組織として取り組まなければ成果はあげられない。これまで、教員の働き方については、時間を惜しまず丁寧に取り組むことを良しとする傾向があった。教員の業務は拡大し負担感が増大し、そのことにより教員は疲弊し、教育の質の低下が懸念され、教職が持続可能な職業として維持できなくなるのではないかという危機感すら表れてきている。

そこで、教職員の意識改革を図る必要がある。そのために教育長や校長は、強い思いとリーダーシップを発揮し、先を見通す力、組織的に進める企画力をもって進めることが大切である。

教育長は、毎月の校長会議、年間6回の教頭会議において、この3年間、事業について毎回取り上げ、その目的や意義、計画、事例などを説明してきた。また、この会議の中では、校長(教頭)から各学校の取組について、報告や意見交換を行う場を設定した。さらに、学校訪問においては、学力向上や教職員事故防止だけでなく業務改善・働き方改革に関する内容も含めて、冊子にして全教職員に配付し、教育長挨拶の中で直接説明するようになった。

その他には、教職員全体研修会で、この事業に関する講演会を実施したが、指導者の講演の他に、1・3年目は、教育長が対談や講話を行い、思いを訴えた。

校長も、各学校においては、同様にリーダーシップやマネジメント力を発揮し、教職員の意識改革や具体的な改善・改革を進めた。このときに大切なことは、学校間の競

争ではなく、各学校の目指す学校像に基づいて進めることであり、背景や実態、校種の違いなどに応じた取組になるようにすることである。

教職員の意識改革と自律的な業務改善

ここでは、「ボトムアップ」について取り上げる。

業務改善・働き方改革は、当事者である教職員が、自分の問題として取り組んでいかなければ、問題解決にはつながらないし、長続きする取組にはならない。

そのために、本町では、「学校版カエル会議」の手法を導入した。この会議は、学校ごとに教職員7～10名程度で構成し、2週間から1か月に一回実施する、付箋紙を活用した教職員主体の参加型の会議である。

まず始めるにあたって、参加者により「目指す学校像」について出し合い、協議する中で共有化を図っていく。このときに、校長の示す目指す学校像が、参加した教職員によって議論され、その具体的な意味や内容について理解していくことになる。そして、その目指す学校像の具現化に向けて、現在の学校の業務の進め方について課題を出し合い、その解決策について具体的に考える。その中から、やれること、効果が期待できることに絞り込み、全教職員で2週間から1か月取り組んでいく。全員で実践し、次の会議で報告し合い、成果と課題を明らかにし、新たな課題についてはさらに解決策を考え、また全教職員で実践することになる。このようにPDCAサイクルで回すことになる。

このようにして、教職員一人一人が業務や働き方を見直し、教職員が自律的に取り組むことにより、教職員側からの意識改革につながっていった。このときに大切なことは、管理職も教育委員会も、会議のマネジメント役(教務主任等)と情報交換し、助言しながらも、委ねたことについては後押しし、成果を共有し、教職員が達成感や充実感を味わえるようにすることである。

以上2点について述べたが、推進にあたって両者(トップダウンとボトムアップ)は一体であり、また、両者のバランスが重要である。

本年度、事業を発展させ、全小中学校で学校運営協議会を設置し、カエル会議の手法も導入し、地域とともにある学校づくりに取り組んでいる。

事業の取組については、「伊奈町学務係」で検索するか、右のQRコードで検索していただきたい。

